

二六八三番

彼方をちかたの 赤土はにふの 小屋をやに 小雨こさめふ降り 床とこさへ濡ぬれぬ
身みに添そへ我妹わぎも

二六八四番

笠かさなみと 人ひとには言いひて 雨あまつつみ 留とまりし君きみ
が 姿すがたし思おもほゆ

二六八五番

妹いもが門かど 行ゆき過すぎかねつ ひさかたの 雨あめも降ふら
ぬか そをよしにせむ

二六八六番

夕ゆふ占け問とふ 我わが衣手ころもでに 置おく露つゆを 君きみに見みせむと
取とれば消けにつつ